

(メール施行)

私 文 号 外
平成23年 4月 7日

各学校法人理事長 殿
各私立学校長 殿

宮城県総務部私学文書課長
(公 印 省 略)

東日本大震災に係る内閣総理大臣及び文部科学大臣からのメッセージ
について (通知)

このことについて、別紙写しのとおり文部科学省初等中等教育局長から通知がありましたので、御承知願います。

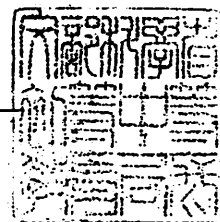
私学文書課私立学校班 (担当 小形)
☎ 022-211-2268 FAX 022-211-2296
電子メール : ogata-hi458@pref.miyagi.jp



23文科初第40号
平成23年4月6日

各都道府県教育委員会教育長
各指定都市教育委員会教育長
各都道府県知事
附属学校を置く各国立大学法人学長 殿
小中高等学校を設置する学校設置会社を
所轄する構造改革特別区域法第12条第1項
の認定を受けた各地方公共団体の長

文部科学省初等中等教育局長
山中 伸



(印影印刷)

東日本大震災に係る内閣総理大臣及び文部科学大臣からのメッセージ
について (通知)

このたび、新学期を迎えるに当たり、別紙のとおり、内閣総理大臣及び文部科学大臣より全国の児童生徒及び学校関係者に対するメッセージを発表しました。

このメッセージは、内閣総理大臣及び文部科学大臣から「新学期を迎える皆(みな)さんへ」と題して全国の児童生徒へ、文部科学大臣から「全ての学校関係者の皆様へ」と題して教職員をはじめ全国の学校関係者へ感謝や激励の念等を表しているものです。

つきましては、都道府県・指定都市教育委員会教育長におかれましては所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対して、都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長におかれましては所轄の学校法人及び学校設置会社に対して、国立大学法人学長におかれましては設置する附属学校に対して周知を図るとともに、このメッセージが各学校の児童生徒及び教職員等に行き渡るよう、特段の御配慮をお願いします。

なお、文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp>) にも文部科学大臣からのメッセージを動画で掲載していますので併せて御覧ください。

(本件連絡先)
文部科学省初等中等教育局
初等中等教育企画課企画係
渡邊, 菅谷, 高橋
(電話) 03-6734-2589 (直通)
(FAX) 03-6734-3731
(E-mail) syoto@mext.go.jp

(小学校段階の児童用)

新学期を迎えるみなさんへ

みなさん、入学、進級おめでとうございます。

この4月から、また新しいお友達をたくさん作ってください。

みなさんは、この4月、希望に満ちた春を迎えるはずでした。

しかし、この春は、私たちにとって、とてもつらい春になってしまいました。

ご存じのように、3月11日、あの大地震と津波が日本をおそったのです。

みなさんの中にも、ご家族を亡くされたり、あるいはいまでも避難所から学校に通ったりしている人たちがいることでしょう。

避難所の中では、みなさんがお手伝いをしたり、お年寄りや身体の不自由な人を助けて、掃除をしたり、食事の準備をしたりしてくれているという話をたくさん聞きました。本当にありがとう。

いま、みなさんは、すべての悲しみや不安から逃れることはできないかもしれません。でも、みなさんは、決して一人ではありません。どうか、先生やお友達と助け合って、一日も早く、みんなが楽しく安心して学び、遊べる学校を取り戻しましょう。私たちも全力で、みなさんと一緒にがんばります。

災害にあわなかった地域の児童のみなさんにも、お願いがあります。

どうか、みなさんの学校にやってくる、避難してきた仲間たちを温かく迎えてあげてください。すぐ近くに、そういったお友達がいなくても、遠く離れて不自由な生活をしている子どもたち、あるいは、この震災で亡くなり、進学、進級を果たせなかった子どもたちのことも、同じ仲間だと思って、祈りとはげましの声をあげてください。

小さなみなさんも、節電をしたり、おこづかいを貯めて募金をしたりしてくれているという話もたくさん聞きました。そして、私たちがとても誇らしい気持ちになりました。みなさんのその思いやりがあれば、日本はきっと、もっともっと素晴らしい国になって、もう一度立ち上がります。

もっとも被害の大きかった東北地方にも、もうすぐ春が訪れます。

みなさんは、「桜前線」という言葉を、先生からもう習いましたか？ 桜の

花が開く日を線で結んだものです。

日本の国土は縦に細長いために、沖縄では例年1月上旬に開花宣言が行われ、その桜前線は、約半年をかけて、5月の下旬に北海道の北端に到達します。自然がおりなす、素晴らしい命のリレーです。

自然は、今回の地震や津波のように、時に、私たちに厳しい試練を与えます。しかし桜前線のように、私たちをやさしく包んでくれるのも、また自然の力です。

みなさんも、どうか、思いやりのリレーのバトンを、被害を受けた地域の仲間
に届けてください。電車の中でお年寄りに席を譲ること、身体の不自由な方
たちの手助けをすること。そうした身近な人への思いやりが、きっと少しずつ広
って、桜前線と一緒に、被災地に届くことでしょう。

この思いやりのバトンは、世界中からも届けられました。世界中から、救助
の人が来てくれたり、支援の品が届けられました。みなさんも、たくさ
ん勉強をして、今度は、このバトンを世界中の困っている人たちに返してあげ
られるような大人になってください。

原子力発電所の事故に対して、危険をかえりみずに立ち向かう消防士さんや
自衛官、電力会社の人たちの姿。各地の被災地で救命救急活動に当たった
警察官やお医者さん、看護師さん、そして何より、本当に命がけでみなさんを
守ってくれた学校の先生たちの姿を忘れないでください。みなさんも、もっ
もっと身体を鍛え、判断力を養い、やさしい心を育て、他人のために働け
る人になってください。

私たちも、全国の学校の先生方も、みなさんが笑顔で登校できるように、全力
でみなさんを支えます。日本の未来は、みなさんにかかっています。みなさん
の明るい笑顔で、日本を元気にしてください。

内閣総理大臣 菅 直人

文部科学大臣 高木 義明

(中学校、高等学校段階の生徒用)

新学期を迎える皆さんへ

皆さん、入学、進級おめでとうございます。

皆さんは、この4月、希望に満ちた春を迎えるはずでした。

しかし、この春は、私たちにとって、とてもつらい春になってしまいました。

御存じのように、3月11日、あの未曾有の大地震と津波が日本を襲ったのです。

皆さんの中にも、ご家族を亡くされたり、あるいはいまでも避難所から学校に通ったりしている生徒さんがいることでしょう。

避難所の中では、皆さんが率先して、お年寄りや身体の不自由な方を助け、掃除をしたり、食事の準備をしたりしてくれているという話をたくさん聞いています。皆さんがボランティアで活躍しているという知らせも、たくさん届いています。本当にありがとうございます。

直接被災をした皆さん。皆さんは、十代のもっとも人間が成長する時期に、この大きな試練に立ち向かわなければならなくなりました。

いま抱えているすべての悲しみや不安から、完全に逃れることはできないかもしれません。でもいつか、皆さんが、その悲しみと向き合えるようになる日まで、学業やスポーツ、芸術文化活動やボランティア活動など、何か一つでも夢中になれるものを見つけて、この苦しい時期を乗り越えていってもらえればと願います。

学校は、あらゆる面で、皆さんが、この逆境を乗り越えていくためのサポートをしていきます。

災害にあわなかった地域の生徒の皆さんにも、お願いがあります。

どうか、皆さんの学校にやってくる、避難してきた仲間たちを温かく迎えてあげてください。すぐ近くに、そういった友達がいなくても、遠く離れて不自由な生活をしている同世代の友達を、同じ仲間、友達だと思ってください。そして、被害を受けた仲間の声に耳を澄ましてください。

この大震災を通じて、日本国と日本社会は、大きな変化を余儀なくされます。この大震災からどうやって国を立て直していくのか。自然と共生して生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

もちろん復興の過程では、「がんばろう」という元気なかけ声が必要です。しかし、それと同時に、新しい社会、新しい人間の絆きずなを作っていくために、大きな声にかき消されがちになる、弱き声、小さな物音にも耳を澄ましてほしいのです。

東北が生んだ詩人宮沢賢治は、科学と宗教と芸術の力で、冷害・凶作の多かったこの東北地方の農民を、少しでも幸せにしようと考え、そのことに一生を捧げました。

どうか、他人の意見もきちんと受け止めながら、自分で合理的な判断ができる冷静な知性を身に付けてください。しかしそれだけではなく、他人のために祈り涙する、温かい心も育ててください。そして、芸術やスポーツで人生を楽しむことも忘れないでください。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』には、こんな言葉があります。

「僕、もうあんな暗くろの中だってこわくない。きっとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んでいこう」

賢治の言う「ほんとうのさいわい」とは何でしょう。この大きな災害と混乱の中で、皆さんに、このことを考えて欲しいのです。

もしも、それを皆さんが本当に真剣に考えてくれるなら、きっと皆さんは、どこまでもどこまでも、一緒に進んでいけるはずです。そしてその先には、もつともつと素晴らしい新しい日本の国の姿があるはずです。

忘れないでください。一緒に進んでいくのは、決して日本人だけではありません。今回の東日本大震災では、世界中からたくさんの支援が寄せられています。また、この非常時にあっても秩序正しく、理性を失わない日本人の姿に、世界中が驚き賞賛の声を揚げました。私たちは、世界と共にいます。

原子力発電所の事故に対して、危険をかえりみずに立ち向かう消防士や自衛官、電力会社の人たちの姿。各地の被災地で、救命救急活動にあたった警察官や医療関係者、そして何より、本当に命がけで皆さんを守ってくれた学校の先生たちの姿を忘れないでください。そして、みなさんも、もつともつと身体を鍛え、判断力を養い、優しい心を育て、他人のために働ける人になってください。

日本の未来は、皆さんの双肩にかかっています。

あなたたちのその笑顔、ひたむきな表情が、いま家族や地域の人々を支えようと懸命にがんばっている大人たちに、勇気と希望を与えています。

私たちも、全力で、皆さんの支援に取り組みます。

本当の幸せを求めて、一緒に歩いていきましょう。

内閣総理大臣 菅 直人

文部科学大臣 高木 義明

(教職員等学校関係者用)

全ての学校関係者の皆様へ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになった多くの方々に心からお悔やみ申し上げます。また、被災された多くの方々に、深甚のお見舞いの意を表します。

地震、津波から20日余りが経ち、新年度が始まりました。子どもたちの教育が再開できるよう、学校はじめ教育関係者、教育委員会が、地域の皆様やボランティアの方たちと手を取り合って、各地で懸命の努力が続けられています。このことにまず、文部科学大臣として深く感謝いたします。

教職員の中には、子どもを守ってお亡くなりになった方もいらっしゃいます。避難所では、子どもたちを守り世話をし続けてくださっている先生方も多くいらっしゃいます。日本の教職員のすばらしさを誇るとともに、亡くなられた方に、改めて哀悼の意を表し、皆様の御努力に感謝いたします。

こうした国難に直面しますと、正に「子どもは国の宝」ということを実感いたします。これからの新しい日本社会を担う、この子どもたちを、どうか悲しみの淵から救い、教え導いてあげてください。

学業をおろそかにすることはできませんが、子どもの笑顔を取り戻すために、スポーツ、文化活動、ボランティア活動、できることは何でも工夫して取り入れていく必要があるでしょう。文部科学省としても、平時以上に柔軟に、皆様の取組を支援していく所存です。

私の子どもたちへの気持ちは、お配りした「新学期を迎える皆(みな)さんへ」という文章の中にしたためました。できるだけ子どもの心に届くように、小学校段階の児童向けと、中学校・高等学校段階の生徒向けとに分けて文章にしました。それでも小学校の低学年には少し難しい文章になったかもしれません。中学校の新入生には、少し厳しい表現になったかもしれません。その部分は、どうか現場の先生方が、更にかみ砕いて、私の気持ちをお伝えいただければと願っています。

生徒向けの文章にも書きましたが、この大震災を通じて日本国と日本社会は、大きな変化を余儀なくされます。大量生産大量消費を前提とするような社会、物質至上主義から、どうやって国のかたちを変えていくのか。自然と共生して

生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

教育の在り方もまた、改めて問われることとなるでしょう。

生徒たちをお願いしたのと同じように、皆様もまた子どもたちの声に耳を澄ましてください。小さな声、弱い声に耳を傾けることが、新しい教育の出発点です。

被災地以外の教職員の皆様にも、被災地からの転入児童生徒の受入れ、直接的な学校支援や、ボランティア活動などでの被災地支援で、大変御尽力いただいております。本当に感謝いたします。

どうか、全国の教職員が心をつなげて、この難局に当たってください。全ての力を、子どもたちのために結集してください。

最後にもう一つだけ、お願いがあります。

教職員の皆様自身の心のケアです。

皆様が児童・生徒を思う余り、過度な負担がかかってしまっていることを、何よりも心配しております。

被災地の教職員の中には、御家族や同僚を亡くされた方、御自身もまだ避難所生活の方もたくさんいらっしゃるかと思います。そういった皆様も、新学年、授業の再開に向けて御尽力いただいていることには、本当に感謝いたします。

しかし、できることなら、一日に1時間でも2時間でも、御自分の時間を作ってください、心と体に滋養を与えてください。

復旧から復興へ、子どもたちを守り育てていくこの取組は、長期戦となるでしょう。持続可能な復興を、できることから手を付けていきましょう。

私はもとより、文部科学省職員一同は、今こそ一丸となって、粉骨砕身、現場の皆様を支えていきます。

どうか、子どもたちの明るい笑顔があふれる学校を、もう一度、共に作っていきましょう。そして、子どもたちの元気をもって、日本全体を、明るく元気にしていきましょう。

御協力を、切にお願い申し上げます。

文部科学大臣 高木 義明